

平成24年産粗飼料の傾向

24年産は粗飼料全体として、例年と比べ成分値の傾向が変わっております。当グループでの分析結果を基に、各種類での傾向を示します。

●乾草(1番草)の傾向(表1)

24年産イネ科主体1番乾草の平均値(表1)を見ると、低粗蛋白質(CP)傾向は変わらないものの、ここ数年の高繊維傾向が改善され、繊維は低い傾向にあります。そのため、NFCはここ数年で最も高い結果となっています。

表1. イネ科主体1番乾草の平均値(乾物%)

	水分	CP	ADF	OCW	NFC
H24	17.4	7.2	41.1	69.5	20.6
H23	17.4	7.1	43.7	73.8	16.5
H22	17.5	8.0	42.9	73.6	15.2
H21	16.4	7.4	42.3	73.6	15.4
H20	15.8	7.1	42.1	72.8	16.1
H19	16.2	7.3	42.2	72.8	16.1
H18	17.3	7.7	41.8	71.5	17.1

●牧草サイレージ(1番草)の傾向(表2、3、図1、2)

24年産は低CPの傾向が続いていますが、乾草と同様に繊維が低い傾向にあります(表2)。NFCはここ数年で最も高い結果となっており、Ob/OCWとリグニンの値もここ数年で最も低く(図1)、繊維の消化性も良好と思われます。ラップサイレージも同じ傾向でした(表3)。

表2. イネ科主体1番GSの平均値(乾物%)

	pH	水分	CP	ADF	OCW	リグニン	NFC
H24	4.1	73.8	11.1	38.6	66.0	4.12	16.0
H23	4.2	75.0	11.9	42.4	69.2	4.83	11.7
H22	4.3	74.7	11.4	43.0	70.8	5.23	10.8
H21	4.3	73.5	11.8	42.0	70.7	4.95	10.0
H20	4.2	73.3	11.9	41.2	68.7	4.74	10.9
H19	4.3	73.7	11.8	41.7	69.3	4.92	10.7
H18	4.4	74.1	12.4	41.1	68.7	5.01	10.8

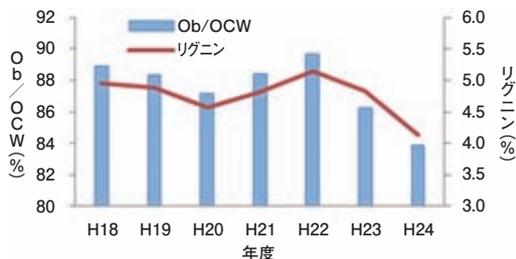


図1. Ob/OCW・リグニンの年度変化(牧草サイレージ)

表3. イネ科主体1番RPの平均値(乾物%)

	pH	水分	CP	ADF	OCW	リグニン	NFC
H24	5.5	39.2	9.9	37.6	66.6	3.55	19.2
H23	5.4	40.9	10.2	41.7	70.0	4.08	15.1
H22	5.0	39.8	10.5	41.9	70.2	4.49	14.5
H21	4.9	41.3	10.3	41.8	70.4	4.46	14.2
H20	4.9	41.4	10.0	41.4	69.5	4.21	14.6
H19	4.9	41.9	10.5	10.9	68.5	4.10	14.9
H18	4.9	44.5	10.6	41.1	69.0	4.27	14.6

24年産は、V-Scoreが80点以上の物が多く、60点未満の物が少ない傾向にあります。ここ数年と比較しても、V-Scoreが80点以上の良好な発酵

のものが多い結果が見られています(図2)。

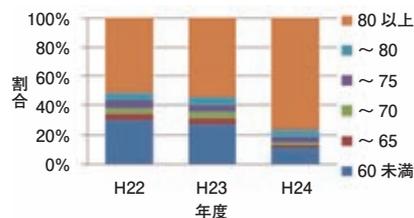


図2. V-Scoreの年度変化(イネ科主体1番牧草サイレージ)

●トウモロコシサイレージの傾向(表4)

24年産のデンプンは、ここ数年で最も高い結果となっています(表4)。粗脂肪も高い傾向にあり、繊維は低い傾向にあります。

表4. トウモロコシサイレージの平均値(乾物%)

	pH	水分	CP	ADF	NFC	EE	デンプン
H24	3.9	70.6	8.3	23.2	40.5	3.05	28.1
H23	3.8	69.8	8.1	24.8	38.5	2.93	26.0
H22	3.9	68.6	8.3	23.1	39.2	3.24	27.6
H21	3.9	71.4	8.0	24.8	40.8	2.52	24.9
H20	3.9	71.6	8.3	24.2	40.0	2.63	24.7
H19	3.9	69.3	8.3	22.9	40.7	2.79	25.7
H18	3.9	70.0	8.3	22.8	41.8	2.67	26.1

●まとめ

24年産のイネ科主体1番乾草・牧草サイレージは、ここ数年続いていた高繊維傾向が改善され、繊維の消化性も良好な結果が出ています。全体としてNFCも高く、発酵品質も良好で、TDNも高い傾向です。しかし、中には酪酸発酵のため栄養価の低いサイレージや、刈り遅れのため低CP・高繊維となっている乾草も見られています。23年産サイレージの成分傾向と大きく異なるため、餌の切り替え時には、給与設計の見直しや採食状況・糞性状の確認が必要と思われます。

トウモロコシサイレージにつきましても、例年に比べ低繊維で、脂肪とデンプンが高めの傾向が見られています。しかし、熟期が進みすぎて子実が堅くなってしまっているものも散見されているため、サイレージ原物や採食状況についての確認もお願いします。

これらの傾向がすべての粗飼料に当てはまるわけではありませんが、今後給与される粗飼料の目安として頂ければ幸いです。

(分析グループ 川越)



雪印種苗株式会社

編集発行人 岡村 一範
 本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号
 TEL (011)891-5911
 FAX (011)891-5774